

第3次行財政改革プランについて

4人の議員が行革について質問

平成29年度から第3次行財政改革プランが動き出しました。過去2回の行財政改革は人員削減などが中心でしたが、今回は制度の見直しや働き方改革などが行われます。

第3次行財政改革プラン

平成29年度～33年度までの5年間

改革のテーマ「将来の人口減少を見据えた行政基盤の確立」

行政サービス改革

民間の活用
窓口の充実

財政構造改革

事務事業の見直し
資産の管理と活用
負担の適正化
財源確保
徴収体制の強化

行政運営改革

簡素で効率的な組織
職員の意識改革
働き方改革

高梁市では、平成17年度から平成22年度、平成22年度から平成26年度にかけて2度の行財政改革を行い、職員数の削減や事務事業の見直しなど、歳出削減に向けた取り組みを推進してきました。

しかし、人口減少とそれに伴うさまざまな課題、またこれまでの改革で計画どおり改善しなかった事項や、合併から10年以上がたつ中で、いまだに統一されていない事務や業務も存在しています。

これらの課題解決に向けて、平成29年度から平成33年度までの5年間、第3次行財政改革が行なわれます。

議会へは、平成30年2月7日の全員協議会で執行部から案が示されました。その後、3月定例会では4人

の議員が、執行部に質問しました。

行財政改革の推進体制と進捗管理についての質問には、高梁市行財政改革推進本部の部長は市長で、事務局は理財課が担当する。本部の下に6つの部会を設置し、推進本部における協議内容は部会を通じ周知する。また民間の委員から構成される『高梁市行政改革推進委員会』を設けて、意見を伺いながら取りまとめしていく、推進本部が全体を掌握し、実施計画の見直しについて随時協議する等改革全体の進捗管理を行う、という答弁がありました。

また、旅費のうち宿泊費の精算方法を定額から実費にしてはどうかという質問には、宿泊費には宿泊に伴う諸雑費が全て含まれている。実費にすると、必要性まで検証するために膨大な事務量がかかる。他方、事務経費の削減のために、国も安いパックツアーを使うことを検討しているの、という答弁がありました。

う答弁がありました。

さらに、市民要望に基づいた行財政改革プラン及び実施計画の策定を行なうべきではないかという意見に対し、行財政改革は、将来において安定した行政運営を維持し、質の高い市民サービスを提供するために、市民に対して一番いい施策を検討する中で、全体を見ながら市民要望に応えさせていただくことを基本に置く、という答弁がありました。

3月
定例会

平成30年度予算を中心に審議

3月9日から3月27日まで、平成30年第2回高梁市議会定例会が開催されました。今定例会では市長提出の議案76件全てを可決しました。また追加議案1件が提出され、適任と決しました。

市長の提案説明に 対する質疑

農業施策

農家への支援の内容についての質問に対し、認定農業者や農業法人などに重点的に支援をしていくこと、新規就農者を受け入れるためのお試し住宅への支援、販売力強化、ブランド力強化への取り組みを考えている、との答弁がありました。

就学前の

保育・教育

高梁市街地における保育園と幼稚園の整備、待機児童問題についての質問がありました。

これに対し、現在入園希望者の調整をしており、平成30年度は待機児童を出さずに済むのではないかと考えているが、引き続き保育士や幼稚園教諭の確保に努めていく。市街地の認定こども園については早急に進めていく必要がある、ので、平成30年度の課題として取り上げたい、との答弁がありました。

また、保育園や幼稚園に通っていない子どもたちへの施策について質問がありました。

これに対し、親同士の情報交換の場や遊ぶ場所の提供は行政の責任において実施していかなければならない。また、子どもたちが人

として生きていく上で必要な知識をしっかりと身に付けることができるようソフト面でも取り組みなければならない、との答弁がありました。

高梁市図書館

高梁市図書館に1年で66万人の来館者があったとのことだが、旧市街地、さらに市域全体においてどう波及させていくのかとの質問がありました。

これに対し、長年本市に関わってくださっている明治大学の小林正美副学長からも人の流れをつくる必要性を指摘されており、商工会議所や商店街の方たちと連携して取り組みたい。ま

